

親子間の親密さが高齢者援助に及ぼす影響に 関する考察

—中国重慶市における一人暮らし高齢者の ソーシャルサポートについて—

ZONG Tianran

<研究背景>

中国で実施された国勢調査のデータから見れば、65 歳以上の高齢者が全人口に占める比率は、2010 年の 8.87%から 2020 年の 13.5%になり、全世帯のうち、65 歳以上一人暮らし高齢者世帯が占める比率も、2000 年の 2.3%から 2010 年の 3.6%へと増加している。また、1979 年から実施され、2016 年に廃棄した一人っ子政策の影響を受けて、中国の家族構成はだんだん多子家族から一人っ子を中心とする核家族に転換し、高齢者を支えている子世代が少なくなり、老後生活へのリスクも高めることである。このような高齢化現状と政策の影響を踏まえて、同居相手がない一人暮らし高齢者の介護は大きな問題になっていた。

よって、中国政府は「家庭を基盤として、在宅福祉を利用しながら、入所施設を補充する」という養老システムを提唱しているが、まだ完全に機能していない。そのため、2012 年に改正された「高齢者權益保障法」では、家族の責任の範囲が一層強化され、中国の家族は依然として高齢者扶養の第一義的責任を担っている。

しかし、親子関係がうまくいっていない事例が数多く存在しており、親子の親疎は高齢者の援助を左右することになると示唆していると考えられる。そのため、親子関係をどのように高齢者の援助に影響を及ぼすのかを探求する必要がある。子どもとの交流のみならず、高齢者の社会的孤立を防止するために、子ども以外の人との交際も重要な課題になった。

<研究目的>

本研究では、親子関係の親疎が高齢者援助にどのような影響を及ぼすのかを解明するため、中

国重慶市の一人暮らし高齢者を対象として調査を行い、家族以外のソーシャル・サポートも視野に入れて検討し、個々の高齢者が実際に利用しているソーシャル・サポート実態を把握する。そして、子どもと親密なケースと疎遠なケースを分けて、データ分析を通じて、一人暮らし高齢者が今後も増える中国において、各ケースの高齢者の特徴、家族にかわるソーシャル・サポートの位置づけや拡充に向けた課題などを質的に明らかにする。一人暮らし高齢者のソーシャル・サポートについて、従来、量的な調査が主流であったが、質的な調査によって、実際のソーシャル・サポートの広がり、サポート活用に対する主観的な意味づけを明らかにすることが本研究の一つの狙いである。

<研究方法>

本研究の調査は二段階で行う。第一段階の調査において、改良されたコンボイモデルを使って、調査対象者が現在の生活での交流対象との親密さを測定する。第二段階の調査において、第一段階の調査結果より、子どもとの親密さが最も高い対象者2名と最も低い対象者2名を抽出し、半構造化インタビュー調査を実施する。子どもとの親密さが高いケースと低いケースを対比しつつ、M-GTAを用いてデータ分析を行う。

<研究結果と考察>

1. 親子間の親密さは高齢者が受けたサポート内容とその頻度に影響を及ぼす

本調査では、一人暮らし高齢者にとって、子どもからのサポート内容と頻度は、親密さによって影響を及ぼすことが明らかになった。親密なケースの方は、より頻繁かつ多様な親子間のサポートの授受があり、儒教思想を文化的な土台として、こうした強固な親子関係を下支えしている。疎遠なケースでは、親子間の連絡頻度とサポート内容は親密なケースよりはるかに少なかった。そのような子どもからのサポートが少ない現状を改善するため、法律によって家族のケア責任を強調したとしても、あまり役に立たない。

2. 親子関係に代わる人間関係と新しい生活スタイル

①きょうだい関係と友人関係が親子関係の代替

本研究では、きょうだい関係と友人関係が親子関係の代替的な役割を果たしていることが確認された。きょうだい間の連絡頻度が低くなっても、お互いを気づかいは時間と距離の分離を超えて感じられた。高齢者は友人ともお互いに自発的に頻繁な連絡を保ちながら関係を維持され、豊富な授受サポートと互いの気づかひがある。きょうだい関係と友人関係が果たしている機能や情緒的な気づかひの共有から見れば、きょうだい関係と友人関係は疎遠した親子関係の代替であった。

②親族関係が友人関係の補完

高齢者の加齢などによって、友人関係を希薄化され、親族関係をより重視しつつあるケースもある。希薄された友人関係において、オンラインでは自発的に双方向な交際を保てるが、オフラインでの自発的な交際はほとんどなくなりつつある。しかし、重要視された親族関係では、オンラインもオフラインも積極的に交際を持つようになり、親族は日常の娯楽相手として認知されて、親族関係は友人関係の補完になった。

③スマホの利用と恋愛に対する態度からみる新しい生活スタイル

調査結果から見ると、一人暮らし高齢者の生活は各自異なるあり方を持つが、共通するところがある。本調査では、高齢者はスマホの利用を通じて人間関係を維持した。将来、スマホをうまく使える高齢者が増加することによって、社会的孤立問題を改善できると推測できる。また、スマホの使用を通じて、新たな社会的ネットワークの形成、オンラインショップの利用などを通じて、高齢者の生活スタイルが変わることによって、社会的孤立を防止できると同時に、新たな養老方式も期待できると考える。

また、一人暮らし高齢者が恋愛に対する態度から見れば、単なる自分を世話する人を見つけることだけでなく、信頼できる対象を見つけるという精神的な安定が一番重要視された。今後、高齢者も、恋愛や再婚などを通じて、精神的な充実を期待できるかもしれない。